

## ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年8月6日

【2018年7月28日～2018年8月3日までの推移】

### 【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに上昇しました。また、2年国債金利はおおむね横ばいとなりました。米国と中国の間での貿易摩擦激化が懸念されたことが新興国市場への重しとなる一方、ブラジル企業の決算が好調であったことなどがブラジルへの資金流入の要因になったとみられます。

経済指標では、鉱工業生産などの発表がありました。鉱工業生産は市場予想には届かなかったものの、ストライキなどの影響を受けて落ち込んだ前月と比べると生産の回復がみられました。

8月1日（現地、以下同様）にCOPOM（金融政策委員会）が開催され、ブラジル中央銀行は市場予想通り政策金利の据え置きを決定しました。ブラジル中央銀行は、足元のインフレ率の上昇をストライキの影響による一時的なものとし、インフレ率は基調としては依然低水準であるとの認識を示しました。今後の金融政策については経済状況次第であるとし具体的な言及を避けたものの、インフレ率が抑制されている中ではブラジル中央銀行は政策金利を低位に据え置くものとみられます。

### 【2】今週の見通し

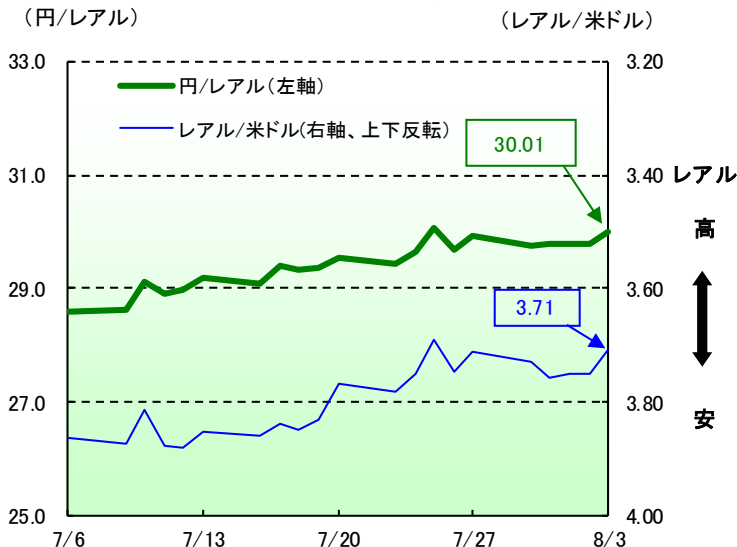
今週は、IPCAインフレ率のほか、小売売上高などが発表される予定です。また、今回のCOPOMの議事録も公表されます。

金融市場では大統領選挙が引き続き大きな材料となっています。大統領選出馬の登録期限である15日が近づく中、ルラ元大統領の動向には注目が集まります。15日より前に裁判所がルラ氏の出馬資格停止を決定する可能性がある、と報じられた一方で、PT（労働者党）はルラ氏を候補者に立てると8月4日公式に発表しました。国民から高い人気を誇るだけに、ルラ氏の動向には注意が必要です。

また、市場ではアルキミン氏の巻き返しが期待されているものの、直近の世論調査でも極右のボウソナロ氏のリードは変わっていません。選挙キャンペーン開始後にアルキミン氏が支持を伸ばせるか、注目が集まります。

### 【ブラジル・レアル 為替推移】

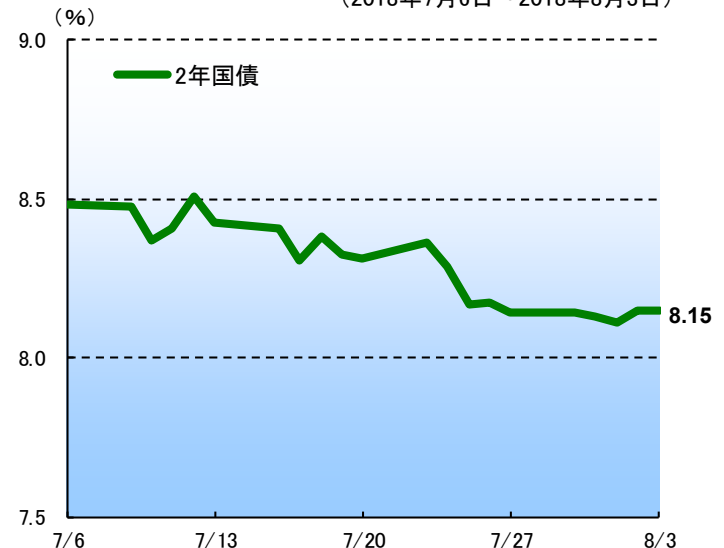
（2018年7月6日～2018年8月3日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

### 【ブラジル 金利推移】

（2018年7月6日～2018年8月3日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>